

大栄不動産、40億円起債

借り入れ長期安定 資金調達を多様化

大栄不動産（東京都中央区、石村等社長、03・3244・0625）は、無担保社債を発行する。3年と7年の社債で起債総額は40億円。非上場の不動産会社が無担保普通社債を発行するのは珍しい。信用力の高まりを背景に、借り入れの長期安定化と資金調達の多様化を推し進める。3年債を第2回、7年債を第3回とする無担保社債を発行する。担保社債を発行する。12日を条件決定日とし、19日を払込日とする。発行金額はそれぞれ25億円、15億円、利率は0・5%、0・9%、利払い日は毎年3月19日と9月19日とする。主幹事証券会社はみずほ証券で、幹事証券会社はむさし証券（さいたま市大宮区）。

非上場の不動産会社で無担保普通社債を発行するのは大栄不動産と森ビルのみ。大栄不動産は今回、非上場でありながら有価証券報告書を提出するなど情報開示体制を整えていること、格付けを取得していること、主要地域の埼玉県を中心に投資家の引き合いが強いことから発行につなげた。特に14年9月に発行した総額30億円の第1回無担保社債（3年）の実績から信用力が高まっているとみており、同社債の借り換えと同時に借り入れの長期安定化と資金調達の多様化を図る。

大栄不動産は東京都と埼玉県を主要地域にビル賃貸、駐車場、住宅事業などを手がけている。17年3月期の営業収益は273億円だった。社債のほか私募債やコーマシヤル・ペーパー（CP）の発行で資金調達の多様化を進めている。